



Title	日本人心不全患者に対する緩和ケアニーズアセスメントツールの妥当性と信頼性に関する研究〔論文内容及び審査の要旨〕
Author(s)	立田, 大志郎
Description	配架番号 : 2912
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(医学)
Dissertation Number	甲第16420号
Issue Date	2025-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/95552
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	TATSUTA_Daishiro_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称 博士（医 学） 氏 名 立田 大志郎

	主査	教授	上田	佳代
審査担当者	副査	准教授	武田	充人
	副査	教授	若狭	哲

学 位 論 文 題 名

日本人心不全患者に対する緩和ケアニーズアセスメントツールの妥当性と信頼性に関する研究

(Studies on Validity and Reliability of the Palliative Care Needs Assessment Tool in Japanese Patients with Heart Failure)

本研究は、心不全患者とその介護者が抱える問題点やケアニーズを包括的に評価することを目的としたニーズアセスメントツールとして開発された **Needs Assessment Tool: Progressive Disease-Heart Failure (NAT:PD-HF)** について、日本語翻訳版を作成し、慢性心不全患者、その介護者を対象として、NAT:PD-HF 日本語版を用いたケアニーズの評価を行い、内的妥当性と再検査信頼性について検討した。また、対象患者と介護者、および NAT:PD-HF 日本語版を用いて評価を行った医療従事者に対する質問票調査を行い、表面的妥当性の評価を行った。このツールを用いたニーズ評価に要する時間は中央値 14 分 (IQR: 12-17 分) で、高い信頼性を示した。また、ツールを使用した医療従事者および評価の対象となった患者と介護者の 90%以上がケアの質が向上すると感じた。本研究は、心不全患者とその介護者に対する NAT:PD-HF 日本語版を用いた緩和ケアニーズを評価した初めての報告であり、ツールが普及することにより日本における心不全緩和ケアの向上が期待される。

学位論文審査にあたり、副査である武田充人准教授より、対象者の背景として認知機能は考慮されているかとの質問があり、これに対して申請者は認知症の有無で対象者の限定はしていないと答えた。先行研究で臨床的・社会的な効果が評価されているかどうかについての質問に対して、現時点で心不全に対するニーズアセスメントツールの効果を検証した研究自体がないため、本研究ではまずツールの信頼性・妥当性評価を行ったとの説明があった。また、本研究が単施設での検討で結果の一般化に対する限界があるのではないかと指摘があり、それに対して申請者からは、この研究結果が心不全緩和ケアガイドライン策定に利用されることも踏まえ、今後の多施設研究が予定されていることや国際比較への展開が期待できると回答した。心不全患者の緩和ケアニーズ評価の診療報酬など、臨床現場での実装などの戦略はあるのかとの問いに対して、本研究で信頼性・妥当性が検証できればツールの使用をガイドラインに載せることで臨床での使用が増えることが期待できると答えた。

次に副査の若狭哲教授より、NAT:PD-HF の客観性評価、特に妥当性の検証が十分ではないかと指摘があった。これに対して、申請者は、比較となる先行研究がないこと、異な

るアセスメントツールとの比較が困難であることから、NAT:PD-HF を用いた患者、介護者、医療従事者のアンケート調査を行いツールの妥当性を検討したこと、このツールの信頼性・妥当性検討を行った本研究が今後の同様のツール妥当性評価の基準となる可能性がある」と答えた。また、本研究では NAT:PD-HF を用いず他の方法でニーズを評価した対照群の有無について質問があった。これに対して、本研究では、日本語版作成とその信頼性評価が大きな目的であったことから対照群はおいていないこと、今後の検討課題になるであろうと答えた。

主査の上田佳代教授からは、NAT:PD-HF の質問項目に関する質問があった。質問項目の中にスピリチュアルな問題に対する質問があり、日本の文化的背景がスピリチュアルな問題を理解しづらいため、検査者による説明が異なれば信頼性が低下するのではないかとの指摘があった。これに対して、確かに質問の一部には患者や介護者が応えづらい内容があることを認めた上で、今回は NAT:PD-HF の原著者から許可をとって日本語版を作成したため、個別の質問について日本の文化に適応させた大幅な変更ができなかったことを踏まえつつ、スピリチュアルの質問項目については緩和ケア従事者や精神科に十分相談をして日本語版に訳したこと、今後、日本語版の普及により個別の質問項目の修正が加えられる可能性がある」と答えた。

本論文は社会の高齢化に伴い増加する心不全患者とその介護者が抱える問題点や緩和ケアニーズの包括的評価を行う点で、心不全緩和ケアの発展を促すことが期待されると高く評価された。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども合わせ、申請者が博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。